

Ⅲ 北海道の体力向上の取組に関する改善の方向性

ここでは、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本道の実技調査及び質問紙調査の結果について、全国平均や上位の都府県の結果と比較・分析した結果に基づいた改善の方向性や具体的な取組事例等を掲載しています。

各市町村教育委員会及び学校においては、本資料を参考にし、体育・保健体育の授業改善や体育・保健体育授業以外の取組の改善・充実を図るなど、児童生徒の体力向上に向けた取組の更なる充実に向け、御活用ください。

1 体育・保健体育授業以外の組織的な取組の充実に向けた方向性

北海道の体育・保健体育授業以外の取組における現状と課題

- ・体育・保健体育の授業以外で、体力・運動能力の向上に係る取組を行っている学校やその取組を年間を通して行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国平均よりも高い。
- ・家庭に対して生活習慣の改善のための資料を配布している学校の割合は、全国平均よりも高い。
- ・1週間の総運動時間が60分未満と回答している児童生徒の割合が、小学校男子及び中学校男女で全国平均よりも高い。
- ・基本的な生活習慣が確立していない（朝食を毎日食べていない、平日の学習以外での画面の視聴時間が長い）児童生徒の割合が全国平均よりも高い。
- ・体力合計点が高いグループは、低いグループに比べ、1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒が少なく、420分以上の児童生徒が多い。
- ・中学校男女ともに、週末の運動機会や運動量の差が体力・運動能力に影響している。

これからの体力向上に向けた組織的な取組の方向性

「体力向上プラン」等を活用した検証改善サイクルの確立

1 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関する現状

○ **体力・運動能力や運動に関する意識・内容、生活習慣、運動習慣等に関する現状**

項目	小学校	中学校	全国平均
朝食を毎日食べる	59.2	58.5	58.5
平日の学習以外での画面の視聴時間が長い	59.2	58.5	58.5
1週間の総運動時間が60分未満	59.2	58.5	58.5
体力合計点が高いグループ	59.2	58.5	58.5
体力合計点の低いグループ	59.2	58.5	58.5

朝食

スクリーンタイム

・朝食を毎日食べる
・平日の学習以外での画面の視聴時間が長い
・1週間の総運動時間が60分未満
・体力合計点が高いグループ
・体力合計点の低いグループ

2 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

○ **体力・運動能力等に関する課題**

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、「上体起こし」においては多くの学年で全国平均を下回るとともに、第2学年において、「体育の授業が楽しい」と回答する生徒が25%に留まったことから、体育の各領域や種目に合わせて、関連して高まる体力を規定するなど、目標意識をもった学習活動を行う必要がある。

○ **生活習慣、運動習慣に関する課題**

- ・「朝食を毎日食べる」と回答した生徒が67%であるとともに、「1週間8時間以内」と回答した生徒は57%であり、朝食の欠食や睡眠時間が短い生徒が一定数いることから、保健分野における望ましい生活習慣についての学びの充実を図る必要がある。

3 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

○ **体力・運動能力等に関する目標**

- ・保健体育科の授業を中心として、運動の楽しさや意義を実感させるとともに、授業の導入に課題である上体起こしにつながる運動遊びを取り入れ、生徒の体力向上を図るようとする。

○ **生活習慣、運動習慣に関する目標**

- ・保健分野の授業の充実を図り、望ましい生活習慣についての理解させるとともに、自分の生活習慣を主体的に調整する生徒を育成する。

4 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関する目標達成状況

○ **体力・運動能力等に関する目標の達成状況に対する評価指標**

【評価方法】

- ・複数回の体力テストの結果
- ・年3回の生徒アンケート

【成果指標】

- ・「上体起こし」の学校平均が全国平均以上
- ・第2学年において、「体育の授業が楽しい」と回答する生徒の割合が50%以上

【評価結果】

- ・中間評価（8・9月）
「上体起こし」の学校平均が全国平均に及ばなかったものの、数値が改善した。
第2学年の52%が「体育の授業が楽しい」と回答し、改善傾向が見られた。
- ・最終評価（3月）
目標に対して、3月に再度生徒調査及びアンケートを行い、評価・分析を行う。

5 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組【1校1実践】

1 **体育授業時のサーキットトレーニング**

- ・種目に必要な技能を身に付けるための練習や、種目に関連させた体力の向上につながる運動をサーキットトレーニングとして取り組む。

2 **学期ごとに健康に関するアンケートを実施し、それと関連した健康に関する出前授業や保健運動ができる場の設定、情報提供**

- ・アンケートを実施することで、自分の生活を振り返りきかけるとともに、健康に関する各様の出前授業を行う際の実際調査とし、その実際に合わせた話をしても、生徒が自分事として聞くことができるようにする。

3 **小学校や保育園・幼稚園などと体力について一緒に考える場をつくる**

- ・小学校を含めた地域の体力についての資料を作成し、9年間だけでなく12年間を見通した体力向上の取組を行えるようにする。

6 **次年度に向けた具体的な取組の改善・充実**

- ・幼・保・小・中学校及び教育委員会等と連携し、田畑町内の体力向上に係る協議を行う場を設定するとともに、学校間が連携した体力向上の取組の方向性を共有する。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査や生活習慣アンケートの経年変化の分析を踏まえ、小・中・高教育の連携の取組と連携し、望ましい生活習慣について児童生徒及び家庭への啓発を行う。

「体力向上プラン」を効果的に活用するにはどのようにしたらよいのだろうか？



※令和5年度体育専科教員等実践概要報告集より
(北海道教育委員会学校教育局健康・体育課HP)

学校全体で体力向上を推進することができるプラン → 正確な状況把握、取組目標の設定、目標達成状況の把握、運動習慣の確立につながる取組

【体力向上プランの活用方法例】

Point①

体力や体育授業における現状や課題等の正確な把握

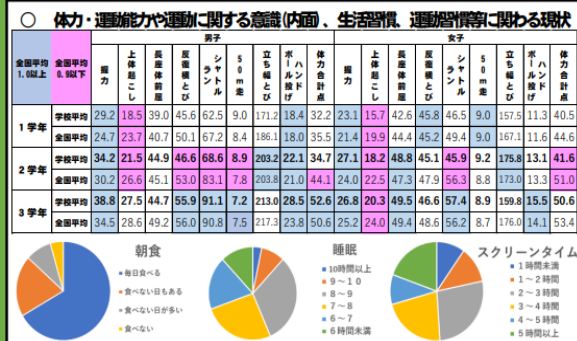
- ・ 体力調査や新体力テストの活用
→ 重点目標や具体的な取組の方向性を検討

Point③

具体的な成果指標や評価方法を設定し、計画的に達成状況を評価・把握

- ・ 学校全体及び児童生徒一人一人の目標達成状況を把握
→ 児童生徒が自己の成長を実感できるような評価の工夫

1 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状



2 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

○ 体力・運動能力等に関わる課題

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、「上体起こし」において多くの学年で全国平均を下回るとともに、第2学年において、「体育の授業が楽しい」と回答する生徒が25%に留まったことから、体育の各領域や種目に合わせて、関連して高める体力を設定するなど、目的意識をもった学習活動を行う必要がある。

○ 生活習慣、運動習慣に関わる課題

- ・ 「朝食を毎日食べる」と回答した生徒が、67%であるとともに、「睡眠時間8時間以内」と回答した生徒は57%であり、朝食の欠食や睡眠時間が短い生徒が一定数いることから、保健分野における望ましい生活習慣についての学びの充実を図る必要がある。

3 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

○ 体力・運動能力等に関わる目標

- ・ 保健体育科の授業を中心として、運動の楽しさや意義を実感させるとともに、授業の導入に課題である上体起こしにつながる運動遊びを取り入れ、生徒の体力向上を図るようとする。

○ 生活習慣、運動習慣に関わる目標

- ・ 保健分野の授業の充実を図り、望ましい生活習慣について理解させるとともに、自分の生活習慣を主体的に調整する生徒を育成する。

4 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる目標達成状況

○ 体力・運動能力等に関わる目標の達成状況に対する評価指標

- 【評価方法】
- ・ 複数回の新体力テストの結果
 - ・ 年3回の生徒アンケート

【成果指標】

- ・ 「上体起こし」の学校平均が全国平均以上
- ・ 第2学年において、「体育の授業が楽しい」と回答する生徒の割合が50%以上

【評価結果】

- ・ 中国評価(8・9月)
「上体起こし」の記録は全国平均に及ばなかったものの、数値が微増した。
- ・ 第2学年の62%が、「体育の授業が楽しい」と回答し、改善傾向が見られた。
- ・ 最終評価(3月)
・ 同項目について、3月に再度実技調査及びアンケートを行い、評価・分析を行う。

○ 生活習慣、運動習慣に関わる目標の達成状況に対する評価指標

- 【評価方法】
- ・ 年3回の生徒アンケート

【成果指標】

- ・ 朝食毎日食べると回答する生徒が80%以上
- ・ 睡眠時間8時間以上と回答する生徒が80%以上
- ・ スクリーンタイム3時間未満と回答する生徒が80%以上

【評価結果】

- ・ 中国評価(8・9月)
3つの成果指標について、第1回目のアンケートの数値から、大きな変化は見られなかった。
- ・ 最終評価(3月)
・ 同項目について、3月に再度アンケートを行い、評価・分析を行う。

5 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組【1校1実践】

1 体育授業時のサーキットトレーニング

- ・ 種目に必要な技能を身に付けるための練習や、種目に関連させた体力の向上につながる運動をサーキットトレーニングとして取り組む。

2 学期ごとに健康に関するアンケートを実施し、それと関連した健康に関する出前授業や気軽に運動ができる場の設定、情報提供

- ・ アンケートを実施することで、自分の生活を見直すきっかけにするとともに、健康に関する各種の出前授業を行う際の実態調査とし、その実態に合わせた話をしてもらい、生徒が自分事として聞くことができるようにする。

3 小学校や保育園・幼稚園などと体力について一緒に考える場をつくる

- ・ 小学校を含めた地域の体力についての資料を作成し、9年間だけでなく12年間を見通した体力向上の取組を行えるようにする。

【取組指標】

- 1 単元の最後には、設定した体力について再測定を行い成長の実感や、その理由を考えさせる。
- 2 出前授業ごとに通信を発行し、家庭でも話ができるようにする。
- 3 保健師が授業などの取組を通じた働きをする。

6 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

- ・ 幼・保・小・中学校及び教育委員会等と連携し、池田市内の体力向上に係る協議を行う場を設定するとともに、学校種間が連携した体力向上の取組の方向性を共有する。
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や生活習慣アンケートの経年変化の分析を踏まえ、小中一貫教育の推進の取組と連動し、望ましい生活習慣について児童生徒及び家庭への啓発を行う。

Point②

課題解決に向けた取組目標を全教職員や児童生徒と共有

→ 把握した体力の状況を児童生徒にフィードバック

→ 児童生徒一人一人の取組目標を明確化

Point④

体力向上や運動習慣の確立につながる体育の授業改善及び授業以外の具体的な取組の推進

→ 日常の運動実践につながる内容や方法を工夫

2 体育・保健体育授業の改善・充実にに向けた取組の方向性

北海道の体育・保健体育授業における**現状と課題**

- ・運動やスポーツをすることが好き、運動やスポーツは大切と感じている児童生徒の割合が全国平均よりも高い。
- ・体育の授業で技や動きができるようになることや動きのポイントなどの知識を理解させることを大切にしていると回答している学校の割合が全国平均よりも低い。※大切にしていることを上位3つ選んで回答
- ・小・中学校男女ともに、ICTの活用は、体育授業への主体性や目標への意識、授業後の振り返りを促進させており、活用頻度が高いほどこれらに強い影響を与えている。特に、小学校女子については、ICTの活用が体力合計点に関係しており、「体育授業における学習の質」が体力向上と関連している傾向が見られる。
- ・小学校においては、「進んで学習している」や「目標を意識することで『できたり、わかったり』する」といった項目と体力合計点に強い相関関係が見られる。
- ・できなかったことができるようになったときに体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の割合が全国平均よりも高く、中学校男女においては、体力合計点との強い相関関係が見られる。
- ・中学校男女ともに、「記録への挑戦や仲間との競争を楽しむ」といった内発的動機付けに係る質問項目と体力合計点に強い相関関係が見られ、特に、男子よりも女子の方が関連性が強い。
- ・中学校男女ともに、体育授業を通した「爽快感」、「多様な種目の経験」、「達成感」を実感するなどの「楽しさの質」が体力合計点に影響しており、その影響は女子の方が強い。
- ・中学校においては、体力合計点や質問紙調査の回答パターンから3つのグループに分類することができ、それぞれのグループの特徴に応じたきめ細かな指導が重要である。

これからの授業改善の方向性

- 解説に示されている「例示」等を参考にしながら、指導内容を明確化・重点化
→ 各系や領域の特性に応じた楽しさの実感
- 「主体性・目標の意識・振り返り」の充実にねらいとしたICTの効果的・積極的な活用
→ 主体的な学習参加や目標を意識した「できた・わかった」につながり、間接的に体力向上に寄与
- 「楽しさの質」を意識した指導の工夫
→ 「爽快感」、「多様な種目の経験」、「達成感」の実感



単元を通した資質・能力の育成

→ 単元構造図による指導内容や指導方法、評価規準、評価機会、評価方法の明確化

【単元構造図の作成例】

- ・ 学習指導要領に示されている目標や児童生徒の実態等を踏まえ、単元の目標を設定する。※単元の終わりの児童生徒の姿をイメージする。(①)
- ・ 学習指導要領の「例示」を参考にしながら、指導内容の明確化・重点化を図り、評価規準に位置付ける。(②)
- ・ 単元の評価規準と1単位時間における評価機会及び評価内容等のつながりを明確にする。(③)
- ・ 単元を通した学習内容やそのつながり及びICTの活用機会やそのねらいを明確にする。(④)
→ 「主体性・目標の意識・振り返り」の充実につながるICTの活用

【中学校】 第2学年 「E 球技 ア ゴール型 バasketボール」の指導計画												
単元名	知識・技能											
E 球技 ア ゴール型 Basketball	【知識】 ① Basketballにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。 ② Basketballでは、相手チームとの競争において技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書き出したりしている。 【技能】 ① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートを行うことができる。 ② パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ③ 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。											
単元の目標	思考・判断・表現											
(1) 知識及び技能 ・ 勝敗を楽しむことや喜びを味わい、球技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ・ ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前で攻められるようにする。 (2) 思考力、判断力、表現力等 ・ 攻めなどの自分の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ (3) 学びに向かう力、人間性等 ・ Basketballに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなど、健康・安全に気を配ることをできるようにする。	① 習得した知識を用いて、提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えていく。 ② 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えていく。 ③ 仲間と話し合う場面、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けていく。											
単元の評価規準	主体的に学習に取り組む態度											
(1) 知識及び技能 ・ 勝敗を楽しむことや喜びを味わい、球技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ・ ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前で攻められるようにする。 (2) 思考力、判断力、表現力等 ・ 攻めなどの自分の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ (3) 学びに向かう力、人間性等 ・ Basketballに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなど、健康・安全に気を配ることをできるようにする。	① マナーを守ったり相手の課題を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ② 仲間に助言したり、仲間の学習を援助しようとしていたりしている。 ③ 健康・安全に留意している。											
単元の学習計画	単元の学習計画											
ねらい ④ 25 50	授業の流れ、きまりの確認 ○ オープンセッション ・ 単元目標の確認 ・ Basketballの特性確認 ・ 授業のきまり(健康・安全に関すること含む)の確認 ・ 道具の準備の仕方の確認	基本的な知識・技能の習得 ○ 目標、流れの確認 OW-UP、習得運動 ○ 前回の振り返り ○ 今日の内容の確認 ○ ハーフコートゲーム ○ カットアップゲーム	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言	空間に走り込む動き ○ 今日の内容の確認 ○ プラクティスゲーム ○ 作戦確認 ○ チャレンジゲーム ※ 準備チームは助言
単元の学習計画	単元の学習計画											
ねらい ④ 25 50	知識・技能 知②	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①	知識・技能 知①
単元の学習計画	単元の学習計画											
ねらい ④ 25 50	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③	思考・判断・表現 ③
単元の学習計画	単元の学習計画											
ねらい ④ 25 50	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③	主体的に学習に取り組む態度 ③

- ・ 運動に必要な「知識」を事前に指導するとともに、その学習した「知識」に基づいて運動を実践する単元の設定(「わかる」と「できる」をつなぐ)
- ※ 技能の定着には時間がかかることから、形成的評価を継続的に行い、随時、児童生徒にフィードバック
- ・ 自己の課題に応じ、その解決に向けた練習の場を自分で選択したり、一人一台端末等で見本動画やこれまでの自己変容を確認して、「できた・わかった」を実感したりしながら運動に取り組むことができる機会の確保
- ・ 運動の特性に応じた本時の授業で実感させたい「楽しさ」を明確にした指導の工夫(挑戦・競争・爽快感・達成感など)

- ・ 習得した知識や技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」の学習につなげることができるよう、チームや個人の課題を確認したり、その課題の解決のための練習方法を既習の学習内容から選択したりする学習機会を設定する。
- (習得した「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等」を育成するための学習)

3 令和6年度（2024年度）の道教委の取組

目的	事業等名		概要																			
体育・保健体育授業の改善・充実	小学校体育専科教員活用事業		○ 小学校に体育を専門とする教員を配置し、学級担任とのTT等による授業改善や近隣の学校の体力向上の取組への指導助言 ・配置状況 <table><tr><td>空知(1名)</td><td>石狩(1名)</td><td>後志(1名)</td><td colspan="2">胆振(1名)</td></tr><tr><td>渡島(1名)</td><td>檜山(1名)</td><td>上川(2名)</td><td colspan="2">宗谷(2名)</td></tr><tr><td>オホーツク(1名)</td><td>十勝(1名)</td><td>釧路(1名)</td><td colspan="2">根室(1名)</td></tr></table> 合計 14名					空知(1名)	石狩(1名)	後志(1名)	胆振(1名)		渡島(1名)	檜山(1名)	上川(2名)	宗谷(2名)		オホーツク(1名)	十勝(1名)	釧路(1名)	根室(1名)	
	空知(1名)	石狩(1名)	後志(1名)	胆振(1名)																		
	渡島(1名)	檜山(1名)	上川(2名)	宗谷(2名)																		
	オホーツク(1名)	十勝(1名)	釧路(1名)	根室(1名)																		
	小学校体育エキスパート教員巡回指導事業		○ 管内の複数市町村の小学校を巡回指導する教員(小学校体育専科教員を経験済の教員)を配置し、巡回市町村や学校はもとより、管内全体の体力向上に向けた取組の改善・充実を図る。 ・配置状況 <table><tr><td>空知(1名)</td><td>石狩(2名)</td><td>後志(1名)</td><td>胆振(1名)</td><td>日高(1名)</td></tr><tr><td>檜山(1名)</td><td>上川(2名)</td><td>留萌(1名)</td><td>林岬(1名)</td><td>十勝(1名)</td></tr><tr><td>釧路(1名)</td><td colspan="4"></td></tr></table> 合計 13名					空知(1名)	石狩(2名)	後志(1名)	胆振(1名)	日高(1名)	檜山(1名)	上川(2名)	留萌(1名)	林岬(1名)	十勝(1名)	釧路(1名)				
空知(1名)	石狩(2名)	後志(1名)	胆振(1名)	日高(1名)																		
檜山(1名)	上川(2名)	留萌(1名)	林岬(1名)	十勝(1名)																		
釧路(1名)																						
中学校授業実践・改善セミナー		○ 体力向上の要となる保健体育授業の改善・充実を図るための教員研修を実施 ・9～11月、道内14会場で実施(全ての管内) ・中学校保健体育科教諭を対象に1日日程で実施 ・公開授業、講義、研究協議及び演習の実施																				
どさん子元気あっぷセミナー		○ 若手教員が体育・保健体育授業の改善・充実を図るための教員研修を実施 ・2月、オンラインセミナー ・小学校教員及び中・高等学校の保健体育科教員を対象に半日日程で実施 ・講話及び先輩教員との協議の実施																				
運動習慣の定着に向けた取組の充実	どさん子体力アップ強調月間		○ 10月の「どさん子体力アップ強調月間」に向けて、学校、家庭、地域、行政が一体となって、子どもたちの体力づくりを進める機運を高める取組の実施 ・「どさん子体力アップ強調月間」の周知 ・各市町村におけるスポーツイベント等の紹介																			
	学校等が活用できる取組	どさん子元気アップチャレンジ	○ 子どもたちが運動に親しみ、楽しく運動を行う態度の育成や体力の向上を図ることができるよう、学校や家庭において活用できる取組を実施 ・シングルロープ全道大会(学校部門、家庭・地域部門) ・ダブルダッチ全道大会(学校部門、家庭・地域部門)																			
		運動動画の配信	○ 日常生活において、子どもが家庭等で手軽に取り組める運動動画の配信 ・みんなでムーブ、ダブルダッチなど																			
その他	体力向上に係る普及啓発資料の作成		○ 教員向け資料 ・小学校体育専科教員、小学校エキスパート教員及び中学校授業実践スペシャリスト実践事例集及び授業動画の作成、周知 ○ 児童生徒及び保護者向け普及啓発資料 ・運動習慣を含む適切な生活習慣の定着に向けた資料の作成、配付																			